

令和7年度 神戸市市民福祉調査委員会
計画策定・検証会議ワーキンググループ（第2回） 議事要旨

日時 令和7年10月29日（水）13時30分～15時30分

場所 神戸市役所1号館8階 中会議室

議題 1. 次期“こうべ”の市民福祉総合計画について

【主な意見】

- ・扱い手や地域という言葉は大事だが、古さや時代的な限界を感じる。
- ・計画を知ってもらうために広報版を作るのはいい試みだと思う。おしゃれにするというのもいいと思うし、神戸ならではのものを作れたら。
- ・テクノロジー、AI関係の記載が必要だと思う。
- ・就労支援の段階を図で示している自治体もある。図を使うと見たときに分かりやすくていいかもしない。
- ・ウェルビーイングの定義について、神戸市の目指すことを書けるとよい。
- ・課題から書いていくという流れになっているが、暗い印象を受ける。こういう取り組みがあつたらいいとか、明るい内容から書いたほうが読みやすいのでは。
- ・プラットフォームの話があるが、これは行政が作ると一番安定感、安心感がある。自由闊達でフラットな意見交換の場というのは、民間では作るのが難しい。そういう取り組みの記載があるといいと思う。
- ・広報版では、神戸市の考える福祉の概念を示すのが良いのではないか。
- ・地域活動をしている人のエピソード、体験を書くといいかもしない。
- ・福祉に関するリテラシーを上げる役割に加えて、神戸市の取り組みを記載することで広報にも繋がるのでは。
- ・企業の姿をもっと入れていくことも重要。
- ・制度としての「マスト福祉」と幸福を追求する「ハッピー福祉」というべきか、両方の観点での取り組みが大切になると思う。
- ・問題が起きる前の予防的な観点を入れていくことが大事ではないか。
- ・中高生の年代は数年後働く世代になる。中高生の時期から支えられる取り組みが必要。
- ・社会情勢の記載に、若者の話やSNSの問題も入れてほしい。
- ・インターネットやAIが発展した今だからこそ、地域の人づきあいの意義を入れたほうがいいと思う。
- ・面倒くささも含めて人づきあいであり、そこで見えてくるものがある。そのことが読み手に伝わるといいと思っている。
- ・Z世代を中心にタイムパフォーマンスが意識されているが、AI利用は突き詰めると幸福感が無く、結果としてパフォーマンスが悪い。これに気づき始めている若者もいる。